

平成26年6月23日

国立大学法人福島大学
学長 中井勝己 殿

監事 平山健一

監事 高橋宏和

平成25年度期末監事監査の結果について（報告）

私たち監事は、国立大学法人法第11条第4項、同法第35条において準用する独立行政法人通則法第39条及び国立大学法人福島大学監事監査規則第2条の規定に基づき、平成25年4月1日から同26年3月31日までの本学の業務及び会計について監査を行った。

監査の結果について、国立大学法人福島大学監事監査規則第9条第1項の規定により、別紙のとおり報告します。

平成25年度期末監事監査報告書

平成25年度期末監事監査は、当年度の監査計画及び期末監事監査実施計画に基づき行ったので、その結果を次のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

(1) 監査区分

1) 業務監査

- ① 役員会・同懇談会、経営協議会及び教育研究評議会等重要な会議に出席し、大学業務の意思決定及び年度計画に基づく業務執行に関わる諸案件の審議状況の確認に努めた。
- ② 各学類ほか24部局等について、監査の重点項目とヒアリング項目を予め提示した上で、書面及びヒアリング方式により監査を行った。
- ③ 監事・監査室による経費の執行状況等に係る内部監査と連携し、大学業務の執行および会計処理の適正性・効率性について確認した。

2) 会計監査

会計監査人から平成25年度決算書に係る監査状況の報告を受け、意見交換を行った。

(2) 監査日及び監査対象部局等

5月19日(月)	地域創造支援センター
	アカデミアコンソーシアム・地域連携課
	役員室
	経済経営学類
	環境放射能研究所
	国際交流センター
5月26日(月)	施設課
	保健管理センター・学生課
	就職支援室
	うつくしまふくしま未来支援センター
	人間発達文化学類
	学系・研究推進機構・ 研究協力課

5月27日(火)	附属図書館(学術情報課)
	総合情報処理センター(学術情報課)
	評価室
	入試課
	人事課
	総務課
	共生システム理工学類
	総合教育研究センター・教務課
	行政政策学類
6月16日(月)	財務課

* 監査会場：監事室

* なお、附属学校園については、別途実地監査を行っている。

(3) 監査方針

- ① 平成25年度年度計画、予算、収支計画等の実施及び期末時点での達成状況について、書面及び実地、質問等により、諸業務が大学の理念・目標に沿って、適正かつ合理的、効率的に行われているかについて監査を行った。

あわせて、中期目標・中期計画の達成状況及び24年度期末監査における指摘事項、25年度における重点的取り組みと成果等についても監査するとともに業務全般にわたり幅広い観点で意見交換を行った。

- ② 平成25年度財務諸表等が、関係法令・諸規程及び国立大学法人会計基準等に基づき、社会への説明責任と高い透明性をもって適正に作成されているか否かについて、財務担当者から意見聴取するとともに、会計監査人が行った監査の方法と結果の相当性について監査した。

(4) 監査実施者

- | | | |
|----------|-----|-------|
| ① 監査員 | 監事 | 平山健一 |
| | 監事 | 高橋宏和 |
| ② 監査補助職員 | 監査室 | 阿久津秀美 |
| | | 水野新次 |
| | | 朝倉恵理 |

2. 監査の結果

(1) 業務監査

福島大学は第2期中期目標期間においては、「教育重視の人材育成大学」としての使命を果たすと共に、教育研究を通じた地域社会への貢献を重視すること等を目標に定めて活動している。国立大学法人評価委員会の平成24年度の年度評価では、全体として「目標達成に向けて順調に進んでいる」との評語を得て、「法人の基本的な目標に沿って計画的に取り組むと共に、復興に向けた取組を大学一丸となって実施していることが認められる」との最高の評価を受けたところであるが、平成25年度においても、学長のリーダーシップの下で、学士課程入学志願者の確保、教育の質の保証システムの構築、研究活動の支援環境の整備等、就職指導、科学研究費補助金の獲得、大学の機能強化等の取組を前年度に引き続いて継続して進めてきた。

また東日本大震災直後に新設された「うつくしまふくしま未来支援センター」では災害の実態調査、コミュニティー再生、産業支援、子どもたちへの学習支援等、多様な事業が着実に進展して、被災地に絆と活力を与えてきた。また原発事故により拡散した放射性物質が環境に及ぼす影響を動的に解明するため平成25年7月環境放射能研究所が新たに設置され、国際的な研究機関との連携の下で活動を開始している。本研究所の新設は大学の抜本的機能強化を図るため、特に全国18大学に措置されたものであり、「うつくしまふくしま未来支援センター」と共に、復興を担う本学の両輪を形成している。同様に「原子力災害からの地域再生をめざす「ふくしま未来学の展開」がCOC事業に採択されている。これらの諸事業は教職員の献身的な努力に支えられて実施されており、文部科学省・地域社会等から高い評価を受けている。

さらに第3期中期目標期間に向けて大学のミッションを明確にするため、昨年度の共生システム理工学類（工学分野）に続いて、平成25年度は人間発達文化学類（学際分野）、経済経営学類と行政政策学類（社会科学分野）の新ミッションについて文部科学省と協議してとりまとめた。また平成26年度に予定されている2度目の大学機関別認証評価のための「自己評価書」の提出準備を進めてきたが、提出に先だって平成25年度外部評価が実施され、その評価結果を踏まえて大学の対応を示した「外部評価改善報告書」（平成26年3月）がとりまとめられている。

平成25年度の業務実施状況を総括すれば、法人の基本的な目標に向けて中期計画に基づく取組が順調に行われており、大学による復興支援が着実に推進されているものと認める。

(2) 会計監査

第2期中期目標期間の当該事業年度においては、前事業年度に行われた日常の会計処理から決算に至る一連の事務処理体制システムの変更が定着し一定の改善が進められ、担当者の実務能力の着実な向上と相まって、財務システムも安定的に運用されていると認められる。

財務担当部署等に対する実地監査及び会計監査人との意見交換等により、予算の執行及び決算の状況の把握に努めた結果、会計監査人である新日本有限責任監査法人の監査の方法及び監査結果は相当であり、財務諸表等は、会計処理手続の妥当性及び財務諸表項目・計数の適正性ととも透明性をもって当該事業年度に関する有用な会計情報を表示しているものと認める。

3. 是正または改善を要する事項

国立大学法人法第11条第5項にいう是正または改善に係る意見は特にありません。